

# 図書館だより 4号



## 7月

令和3年7月20日  
第一日暮里小学校  
校長 白井 一之  
学校図書館プロジェクト



## 今年の夏休みも「調べる学習」に挑戦しましょう!



来週から長い夏休みがスタートします。今年も「学校図書館を使った調べる学習」に取り組みましょう。  
先日の土曜公開日には、1年生の「親子で調べる学習」が行われました。身近な生き物から興味をもったことをテーマにし、本から「わかったこと」を書きぬき、画用紙にまとめることができました。  
夏休み中も午前中は開館していますので、活用してください。(来館時には、職員室に声をかけてください。)  
※過去の荒川区受賞作品は、個人面談の期間中、学年のフロアに展示予定です。ぜひ参考にしてください。

### 注意!! 参考文献を忘れずに!

参考文献とは、調べたときに使った本や新聞、インターネットなどのことです。「図書館を使った調べる学習コンクール」では、必ず使用した本について、下の項目を最後に書いてください。低学年の人は、お家の人に書いてもらっても構いません。

著者名・「書名」・出版社名・出版年・使ったページ

## ① 調べる学習のポイント

### 1. テーマを決める

自分が興味、関心をもったことをテーマにしましょう。タイトルや目次も、具体的に読んでみたくなる工夫をしましょう。

### 2. 資料・情報を集める

資料・情報を集める方法には、図書館で調べる他に、実際に行く、観察、インタビューする、実験する、電話で問い合わせる、インターネットで調べるなど、いろいろな方法があります。1つの方法ではなく、いくつかの方法を組み合わせて取り組みましょう。

### 3. 記録・整理する

調べたその場で、書名、著者名、出版社名、出版年、所蔵図書館などを記録しましょう。後から記録するのは大変です。図・表・写真を使った場合も同様です。「参考文献(参考資料)」として、レポートの最後にのせましょう。

使う資料・情報は多ければよいではありません。必要な情報を選んで、自分のレポートに必要なものを使いましょう。

なお、インターネットは出所が明らかでないことがあります。インターネットを参考にした場合は、サイト名(わかれば著者名)、アクセス日とアドレスを記録しましょう。

### 4. 作品にまとめる

まとめ方は、レポート、ポスター、新聞など伝わりやすい方法を工夫しましょう。調べたことの他に、自分の考えを書き加えます。「調べる学習コンクール」出品作品の大きさは、最大 B4 サイズ、50 ページ以内です。

「わたしはこう考えた」「本で調べてみたら、こう書いてあった」というように、友達が読んで分かるように書きましょう。文体は常体(～である。～だ。)か、敬体(～です。～でした。)にそろえ、引用は「」でくくります。

## ②読書感想文のポイント

夏休みは、本と向き合い、本を通して言葉を豊かにしたり、考えを深めたりする時間があります。本について親子で対話することを通して、読書感想文につなげるのもよいでしょう。読書感想文は感動を伝える文です。感想文を読んだ友達が「その本、読んでみたい。」と思えるような感想文を目指しましょう。

夏休みには、全学年、読書感想文ワークシートが宿題に出ます。感想文の下書きになりますので、しっかり取り組みましょう。

低学年（1・2年生）の場合は、子供の様子に応じて、一緒に本を読んだ時のつぶやきや表情（その時に子供が考えていること）を、保護者が付箋などにメモで残しておく方法があります。メモをもとに、どんなことをテーマに感想文を書くのか、どんな順序で文章の柱を立てるのか決めて、書くとよいでしょう。

中学年（3・4年生）の場合は、読みながら、感想や疑問などをカードや付箋に書くとよいでしょう。後で、詳しく書く内容を決める手がかりになります。読んだ感想から、疑問を解決するための方法を考えるのもよいでしょう。文の構成を、始め・中・終わりで組み立て、読んでみて矛盾がないか確かめます。

高学年（5・6年生）の場合は、分かったことや著者の考えと、自分の考えを付箋やノートに書き、感想を整理するとよいでしょう。感想文の内容によっては、実物を見る、他の本に当たる、博物館や資料館を訪ねる、インタビューするなどしましょう。読書が生活に生かされ、自分の成長が感じられるような感想文になるとすてきです。

読書を通して考えること、書くことが楽しいと思えるように自分に合った本を選びましょう。

### 1. 本を選ぶ

自分に合った本、なぜこの本にしたかを説明できるような本を選びましょう。

### 2. 読む

1回目 全体を読み通す。2回目 感想文に書きたいところに付箋を貼りながら読む。

3回目 付箋などを利用してメモやカードを作る。

### 3. 構成する

始め・中・終わりの構成（柱立て）を考える。

### 4. 書く

#### ①書き出しを工夫する

この本を読もうと思ったきっかけ、感想につながる体験、なぜ？という疑問、会話文、感動した場面などから書き出し、読む人が感想文に引きつけられる工夫をする。

#### ②中…感想文の中心

柱立てに沿って、どんどん原稿用紙に書いていく。読み直すうちに考えが変わってもよい。自分の言いたいことが一番表されているところに◎などの印を付けておく。書き終えたら、書き間違いを直したり原稿用紙を切り貼りしたりして、全体をまとめていく。

#### ③終わり…結びを工夫する。

本を読んで自分の考えが変わったことや、成長できたことを考えて書く。

#### ④題名を工夫する。

「○○○を読んで」ではなく、感想の中心となる言葉や文を題名にして、読む人の興味関心を高める。

#### ⑤清書する。

※ コンクールに関する規定は裏面にのっています。



# 青少年読書感想文コンクールの応募要項より

(主催:公益社団全国学校図書館協議会・毎日新聞社)

対象図書 下の①か②のいずれか

## ① 自由図書

自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションを問いません。

## ② 課題図書

読書感想文全国コンクール主催者の指定した図書。(右ページ参照。)

## 用紙・字数

① 原稿用紙を使い、たて書きで、自分の字で書きます。

## ② 文字数

低学年の部(1・2年生) 本文 800字以内

中学年の部(3・4年生) 本文1200字以内

高学年の部(5・6年生) 本文1200字以内

## ● 題名、学校名、氏名などは字数に数えません。

上に書かれた字数を超えないはんで、できるだけ最後の行まで書きましょう。

## ● 句読点(、や。)はそれぞれ1字に数えます。行を変えるための空白は字数として数えます。

書き方に迷った時は、読書感想文や作文の書き方について書かれた本があります。参考にしてください。

こんな時は<sup>とき</sup>学校図書館<sup>がっこうとしょかん</sup>や公立図書館<sup>こうりつとしょかん</sup>に行きましょう!



・調べる<sup>しらべる</sup>学習<sup>がくしゅう</sup>のテーマが<sup>き</sup>決まっているけれど資料<sup>しりょう</sup>の探し方<sup>さが</sup>やレポートのまとめ方<sup>かた</sup>がわからない。

・読書感想文<sup>どくしょかんそうぶん</sup>を書くためにどんな<sup>か</sup>本<sup>ほん</sup>を読んだらいいのかな?